

日本の家

動画リンク : https://youtu.be/_7ECpm7XVgI

日本の家

今回は「日本の家」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があります。
後半は少しだけ速く(+20%)なり、漢字に「ふりがな」はありません。
学習にお役立てください。

日本の家のしゅるいとがいかん

日本には、いろいろなしゅるいの家があります。ここでは、でんとうてきな和風の家、げんだいてきな洋風の家、アパートとマンションのちがい、そして団地について紹介します。

和風の家

まず、でんとうてきな日本の家、和風の家についてです。「和風」は「日本らしい」という意味です。和風の家は、木で作られていて、やねはかわらです。庭には石や池があります。和風の家の中には、たたみの部屋があります。たたみは、草で作られた床です。和風の家には、ふすまやしょうじという、紙でできたドアがあります。ふすまやしょうじは、光を通すので部屋が明るいです。

洋風の家

次は、げんだいてきな日本の家、洋風の家についてです。「洋風」は「西洋的な」という意味です。洋風の家は、コンクリートやてつで作られています。外の見た目は、シンプルでおしゃれです。洋風の家には、リビングやダイニングがあります。家具も洋風のものが多いです。また、洋風の家には、大きなまどがあり、部屋が明るくなります。庭には、芝生や花があります。

アパートとマンション

次に、アパートとマンションのちがいについて説明します。アパートとマンションは、たくさんの方が住んでいる集合住宅です。アパートは、2階だてや3階だての低いたてものも多く、エレベーターはありません。マンションは、高いたてもので、10階以上のものもあり、エレベーターがあります。アパートは木で作られていてやちんが安いです。マンションはてつやコンクリートで作られていて、やちんが高いことが多いです。

団地

最後に、団地について紹介します。先ほど、アパートとマンションはたくさんの方が住んでいる集合住宅です、という説明をしました。しかし、団地にはもっとたくさんの人たちが住んでいます。たとえば、東京都板橋区にある高島平団地には、10,000以上の家があります。このような大きな団地を「マンモス団地」と呼びます。

団地のたてものは、5階だてや10階だてなどいろいろです。団地には、こうえんやひろばがあり、子どもたちがあそぶ場所がたくさんあります。団地は、昭和時代(1926年から1989年)にたくさん作られました。今でも多くの人に住んでいます。団地は、やちんが安く、広い部屋が多いので、家族で住むのに人気です。

げんかんとくつのしゅうかん

げんかんのやくわり

日本の家には「げんかん」と呼ばれる入り口があります。げんかんは、家の外と内をつなぐ場所です。げんかんにはドアがあり、ドアを開けると小さなスペースがあります。このスペースを「たたき」と言います。ここは、くつをぬぐ場所です。

くつをぬぐしゅうかん

日本の家では、げんかんでくつをぬぐしゅうかんがあります。くつをぬいで家に入ると、家の中が汚れないからです。家の中では、くつをはかずにスリッパをはきます。スリッパは、家の中を歩くためのはきものです。げんかんには、くつをしまうための「くつ箱」があります。くつ箱は、くつをきれいに片付けるためのたなです。家に入る前にくつをぬいで、くつ箱にしまいましょう。

げんかんの物

げんかんには、くつ箱の他にもいろいろな物があります。たとえば、スリッパをおくためのラックがあります。ラックには、家族みんなのスリッパが並べられています。また、げんかんにはかがみがおかれることもあります。出かける前に自分のすがたをかくにんするためです。

げんかんのかざり

げんかんには、季節ごとのかざりものがおかれることが多いです。春には花をかざり、夏にはふうりんをかけます。ふうりんは、小さなベルのようなもので、風が吹くとききれいな音がなります。日本人の多くは、ふうりんの音を聞くと、すずしい気持ちになります。冬にはお正月のかざりをおきます。これらのかざりものは、げんかんのふんいきを明るくして、お客さんをむかえるためのものです。

げんかんの大切さ

日本のげんかんは、家の顔とも言われます。げんかんがきれいだと、家全体がきれいに見えます。げんかんをきれいに保つことは、日本の家の大切なしゅうかんです。げんかんでくつをぬぐ、くつ箱にくつをしまう、スリッパをはくなどのしゅうかんを大切にしている日本人が多いです。

リビングルーム

リビングルームの役割

日本の家には「リビングルーム」という部屋があります。リビングルームは、家族が集まってすごす場所です。

リビングルームの家具

リビングルームには、ソファ、テーブル、テレビなどがあります。ソファは、家族がくつろぐためのイスです。テーブルは、食事や勉強をするために使います。テレビは、ニュースやドラマを見るために使います。これらの家具は、家族がかいてきにすごすために必要です。

たたみの部屋(和室)

次に、たたみの部屋について説明します。たたみの部屋は「和室」と呼ばれます。和室は、でんとうてきな日本の部屋で、床がたたみできています。たたみは、草で作られたやわらかい床です。和室には、ふすまやしょうじという紙でできたドアがあります。和室では、ざぶとんに座ったり、布団をしいて寝たりします。和室は、しずかで落ち着いたふんいきがあります。

でんとうてきな和室とげんだいのリビングのちがい

和室は、たたみの床やふすま、しょうじがとくちょうです。一方、現代のリビングは、フローリングやカーペットの床がっぱんてきです。家具も、ソファやテーブルなどが使われます。和室は、背の低い家具を使うことが多いですが、げんだいのリビングでは、背の高い家具が多いです。

リビングのインテリア

リビングのインテリアは、家族の好みによってさまざまです。シンプルでモダンなデザインが人気ですが、でんとうてきな和風のスタイルを取り入れることもあります。たとえば、和風のテーブルやざぶとんをおくことで、和室のふんいきを楽しむことができます。また、きせつごとにインテリアを変えることで、家の中が明るくなります。春には花をかざり、夏にはまどの近くにふうりんをかける家もあります。

台所と食器

台所の紹介

日本の家には「台所」と呼ばれる場所があります。台所は、料理を作る場所です。ここには、シンク、コンロ、ちょうりだいなどがあります。シンクは食材を洗ったり手を洗ったりする場所です。コンロは食べ物をやいたりにたりするために使います。ちょうりだいは食材を切ったりりょうりをじゅんびしたりする場所です。大きな家の台所は広いですが、小さな家の台所はせまいことが多いです。

日本の食器

日本の食器には、はし、ちゃわん、お皿などがあります。はしは食べ物をつかむ道具です。ちゃわんはごはんを入れる器で、小さくて丸いかたちをしています。お皿はりょうりをもりつける器です。日本のお皿は、いろいろなかたちや大きさがあります。これらの食器は、日本の食事に欠かせません。

台所のかでん

日本の台所には、すいはんきや電子レンジなどの「かでん」とよばれるでんかせいひんがあります。「かでん」とは家庭用のでんかせいひんのことです。すいはんきはごはんをたくためのきかいで、かんたんにおいしいごはんがたけます。電子レンジは食べ物を温めたりかいたうしたりするために使います。これらのかでんは、台所でりょうりをするのにとてもべんりです。

日常のかでん

せっかくなので、台所で使う以外のかでんについても紹介しましょう。せんたくきとそうじきは、毎日の生活に欠かせないかでんです。せんたくきはいるいを洗うためのきかいで、ぜんじどうせんたくきが多く使われています。ぜんじどうせんたくきは、せんたくからすすぎ、だっすいまでじどうで行います。そうじきは床やカーペットのそうじをするきかいで、ゴミやほこりをかんたんにきれいにすることができます。ロボットそうじきも人気で、家の中をじどうでそうじしてくれます。ちなみに、日本で一番売れているロボットそうじきは、「アイロボット」という会社の「ルンバ」という商品です。

りょうりのしゅうかんと台所の使い方

日本では、毎日の食事を大切にしています。朝ごはん、昼ごはん、夕ごはんの3回の食事をしっかり食べます。台所では、まず手を洗ってからりょうりを始めます。食材を切るときはまな板を使います。まな板は、にくとやさいで分けて使うのがいっぱんてきです。理由は、そのほうが安全だからです。りょうりを作ったら、食器にもりつけて、家族みんなで食べます。食事が終わったら、食器を洗ってかたづけします。台所は、りょうりを作るだけでなく、食事のじゅんびやかたづけをする場所でもあります。

しんしつとしんぐ

しんしつの紹介

日本の家には「しんしつ」と呼ばれる、ねるための部屋があります。しんしつには、ベッドや布団などがあります。ねるときに使う布団やまくらなどのことを「しんぐ」といいます。ここでは、ベッドと布団のちがい、おしいれとクローゼットの紹介、でんとうてきな布団の使い方としゅうのう、そしてげんだいのしんしつのインテリアについて紹介します。

ベッドと布団のちがい

ベッドは、木やきんぞくで作られたわくにマットレスをおいたもので、ねるために使います。ベッドは、ねるときに体をささえるので、かいてきです。布団は、やわらかいマットレスのようなもので、ちよくせつ床にしいてねます。布団は、たたみの部屋やフローリングの部屋にしくことができます。使わないときにたたんで片付けることができるので、部屋を広く使うことができます。

おしいれとクローゼット

おしいれは、でんとうてきな日本のしゅうのうスペースです。おしいれは、部屋のかべに作られた大きなたなのようなもので、布団やようふくをしゅうのうします。おしいれの中には、ふすまという紙のドアがあり、物をかくすことができます。一方、クローゼットは、洋風のしゅうのうスペースです。クローゼットには、ようふくをかけるためのハンガーやたながあります。クローゼットは、部屋をきれいに見せるのにべんりです。

でんとうてきな布団の使い方としゅうのう

布団は、夜ねるときに床にしきます。まず、しき布団をしき、その上かけ布団をかけます。朝起きたら、布団をたたんでおしきれにしゅうのうします。布団をたたむことで、部屋を広く使うことができます。また、布団を干すことで、きれいに保つことができます。

げんだいのしんしつのインテリア

げんだいのしんしつは、シンプルでモダンなデザインが人気です。ベッドやクローゼットは、シンプルな色やかたちのものが多いです。しんしつには、かいてきにすごすための家具やインテリアがおかれています。たとえば、ナイトテーブルやランプ、ほんだななどです。ナイトテーブルとは、ベッドの近くにおく小さいテーブルのことです。また、カーテンやカーペットの色を工夫することで、しんしつのふんいきを変えることができます。きせつごとにインテリアを変えることで、リラックスできる空間を作ることができます。

お風呂とトイレ

お風呂のしゅうかん

日本の家には「お風呂」があります。お風呂には「ゆぶね」と「シャワー」があります。ゆぶねは大きなよくそうで、体全体でつかることができます。ゆぶねにつかると体が温まり、リラックスできます。日本では、毎日ゆぶねにつかるしゅうかんがありますが、沖縄県などの1年中あたたかいちいきでは、毎日ゆぶねにつかるしゅうかんはありません。一方、シャワーは立って体を洗うためのものです。まずシャワーで体を洗い、次にゆぶねにつかることが多いです。

トイレの使い方

日本のトイレには「ウォシュレット」というくべつなきのうがあります。ウォシュレットは、トイレのべんざに取り付けられたせんじょうきのうです。ウォシュレットを使うと、水でおしりを洗うことができます。ウォシュレットには、あたたかい水や風でかわかすきのうもあります。使い方は、トイレの横にあるボタンでそうさします。ボタンには絵や文字が書かれているので、かんたんに使えます。海外の人は、日本のトイレにあるウォシュレットにおどろくことが多いです。なれないため「気持ちが悪い」「こわい」とかんじる人もいるようですが、気に入って、買って持ち帰る人もいます。日本では、どこに行ってもトイレにはウォシュレットが使われていることが多いです。これは、日本の水が安全に管理されていることを示しています。

風呂場のデザインときのおう

日本の風呂場は、広くて使いやすいデザインです。風呂場には、ゆぶねとシャワーのほかに「洗い場」があります。洗い場は、イスにすわって体を洗うための場所です。洗い場にはシャワーヘッドや石けん、シャンプーなどがおかれています。また、風呂場にはまどやかんきせんがあり、しっけを外に出すことができます。日本の風呂場のデザインは、せいけつさとしゅうのうをじゅうししています。

トイレの文化とせいけつさ

日本のトイレは、とてもせいけつです。トイレを使ったあとは、必ず手を洗います。また、トイレには、べんざをあたためきのうやしゅうしゅうきのうもあります。これらのきのうは、トイレをかいてきに使うためのものです。日本では、トイレをきれいに保つことが大切です。トイレそうじをていきてきに行い、せいけつなじょうたいを保ちます。

庭とベランダ

日本の庭のとくちょう

日本の家の庭には、石庭、池、しよくぶつなどがあります。石庭は砂や小石を使って作られた庭で、しづかで落ち着いたふんいきがあります。池は水を使った庭の一部で、魚やしよくぶつが住んでいます。池の周りには石や木がおかれています。しよくぶつは庭にいろどりを与えます。さくら、もみじ、まつなどの木や花がうえられており、これらが日本の庭をとくべつなものにしています。

ベランダの使い方とかざり

ベランダは家の外にある小さなスペースです。多くの家庭で、ベランダはせんたくものを干すために使われています。ベランダにはせんたくものを干すためのさおや物干しスタンドがあります。また、ベランダはしよくぶつをそだてる場所としても使えます。ベランダに花や小さな木をおくことで、しよくぶつを楽しむことができます。ベランダのかざりには、小さなテーブルやイスをおくこともあります。これにより、ベランダでお茶をのんだり、本を読んだりすることができます。

小さな庭の作り方と楽しみ方

小さな庭は、スペースがかぎられていても作ることができます。まず、しよくぶつをえらびます。はちうえの花や小さな木がおすすめです。次に、庭のデザインを考えます。石や木を使って、しぜんなふんいきを作ります。さいごに、庭を楽しむ方法です。小さな庭は、きせつごとの変化を楽しむことができます。春には花がさき、秋にはこうようが見られます。さいきんでは、小さな庭でリラックスする時間を作っている人が多いようです。

ガーデニングのしゅうかん

日本ではガーデニングが人気です。ガーデニングはしよくぶつをそだてる楽しみがあります。まず、そだてたいしよくぶつをえらびます。花ややさい、ハーブなど、好きなしよくぶつをそだてることができます。次に、土やひりょう、水やりの方法を学びます。しよくぶつをけんこうにそだてるためには、てきせつなケアがひつようです。ガーデニングは心を落ち着けるしゅみとしても人気です。しよくぶつをそだてることで、しぜんとのつながりを感じることができます。

さまざまな日本の家

都市部と地方の家のちがい

都市部の家は、小さくてコンパクトな作りが多いです。アパートやマンションが多く、こうそうビルの中に住んでいる人もいます。地方の家は、広い土地を使ったいっこだてが多いです。庭やちゅうしゃじょうがあり、しぜんに近い生活を楽しむことができます。

でんとうてきな町家とげんだいの家のひかく

町家は、昔からの日本の家のスタイルで、とくに京都に多く見られます。町家というのは、昔の商人が住んでいた家です。商人というのは商売人のことです。げんだいてきにいえば店舗型住居を指します。町家は、木で作られており、細長いかたちをしています。げんかんから奥に向かって細長く続いているのがとくちょうです。げんだいの家は、コンクリートやてつで作られており、デザインもさまざまです。広いリビングやさいしんのせつびがととのっています。

団地といっこだてのちがい

団地は、昭和時代(1926年から1989年)に多くたてられた集合住宅です。団地は、たくさんのたてものが集まっており、多くの人が住んでいます。団地の中には、こうえんやひろばもあり、子どもたちがあそぶ場所があります。いっこだては、ひとつの家族が住むための家です。庭やちゅうしゃじょうがあり、広いスペースを使うことができます。

日本各地の家のとくちょう

北海道

北海道は冬がとともさむいので、家はさむさに強い作りになっています。かべやまどはあつく、だんねつざいが使われています。家の中には、だんぼうのせつびがととのっており、ストーブやゆかだんぼうがいっぱんてきです。やねは雪がつもりにくいかたちに作られています。

東北地方

東北地方も冬がさむいちいきです。家はあつかべとだんねつざいで作られています。雪が多いため、やねのかたちや雪をかたづけるためのせつびにくふうがされています。また、だんぼうせつびも北海道と同じようにじゅうじつしています。

関東地方

関東地方は、日本の中心部にあり、東京などの大都市があります。都市部では、アパートやマンションが多く、スペースがかぎられています。こうがいにいくと、いっこだての家も多いです。デザインはモダンで、さまざまなスタイルがあります。

関西地方

関西地方には、大阪や京都があります。京都では、でんとうてきな町家が今でもたくさんのこっています。大阪などの都市部では、げんだいてきなマンションやいっこだてがいっぱんてきです。関西地方の家は、れきしとげんだいが合わさったデザインが特徴です。

九州地方

九州地方は、あたたかいきこうがとくちょうです。家は風をよく通します。夏をかいてきにすごせるように作られています。木造の家が多く、しぜんのそざいが使われています。また、じしんや台風強い作りになっています。

沖縄

沖縄は九州地方よりもっとあたたかいきこうです。家はあつさと台風に強い作りです。やねは赤いかわらで、かべはあつく、だんねつざいが使われています。家の周りには、風通しを良くするための庭やかべがあります。沖縄の家は、どくとくの文化ときこうに合わせたデザインがとくちょうです。

これが、日本各地の家のとくちょうです。ちいきによってことなる家のデザインや作り方は、日本のちいきてきな文化としぜんかんきょうとふかくかんけいしています。

日常生活のようす

朝のしたく

朝は、1日の始まりです。家族全員がそれぞれのじゅんびをします。台所では、朝ごはんのじゅんびが行われます。ごはんやみそ汁、やき魚などがいっぱいてきな朝ごはんです。すいはんきでごはんをたき、コンロでおかずを作ります。せんめんじょでは、かおを洗ったり、歯をみがいたりします。シャワーを浴びる人もいます。家族みんながいそがしい時間をすごしています。

家族の団らん

家族が一緒に過ごす時間は、リビングやダイニングでの団らんの時間です。団らんとは、家族が集まって、みんなで仲よく話をしながら楽しく過ごすことです。リビングでは、ソファにすわってテレビを見たり、おしゃべりをしたりします。ダイニングでは、いっしょにごはんを食べます。家族全員がテーブルに集まり、1日のできごとを話しながら楽しい時間をすごします。食事が終わったら、リビングでゲームをしたり、えいがを見たりすることもあります。家族の団らんは、家族のきずなをふかめる大切な時間です。

しゅみの時間

しゅみの時間は、自分の好きなことをする時間です。しょさいでは、本を読んだり、絵をかいたり、音楽をきいたりします。しょさいは、しずかで集中できる場所です。リビングでも、しゅみの時間を楽しむことができます。たとえば、リビングであみものをしたり、テレビゲームをしたりします。しゅみの時間は、リラックスしながら自分の好きなことにぼっとうする大切な時間です。

夜のリラックスタイム

夜は、1日の疲れをいやす時間です。お風呂に入ることで、体があたたまり、リラックスできます。日本のお風呂には、ゆぶねがあり、ゆっくりとつかることでリフレッシュできます。お風呂から出たら、しんしつでリラックスします。しんしつには、ベッドや布団があり、かいてきなすいみんをとるための場所です。ねる前には、本を読んだり、音楽をきいたりすることもあります。夜のリラックスタイムは、次の日にそなえて体と心を休める大切な時間です。

これが、日本の家での日常生活のようすです。それぞれの時間が、家族のきずなをふかめて、みんなのリラックスとじゅうじつをささえています。

その他

ゴミの分別とリサイクルのしゅうかん

日本では、ゴミの分別がとても大切です。分別とは分けることです。家庭で出るゴミは、もえるゴミ、もえないゴミ、リサイクルゴミなどに分けて捨てます。もえるゴミは、食べ物の残りや紙などです。もえないゴミは、プラスチックやガラス、きんぞくなどです。とくにわれたガラスなどを捨てるときは、さぎょういんの人がケガをしないようにしんぶんして包むなどして捨てる人が多いです。リサイクルゴミは再利用されるため、しげんをむだにしません。ゴミの分別は、かんきょうを守るための大切なしゅうかんです。リサイクルゴミは、ペットボトルや缶、古紙などです。これらのゴミは、決められた日に、それぞれのゴミぶくろに入れて捨てます。

家の安全たいさく(じしんたいさく)

日本はじしんが多い国です。日本はとても小さな島国です。日本の広さは世界全体のわずか0.23%しかありませんが、全世界で起こったマグニチュード(magnitude)6以上の大きなじしんの内、約18%が日本で発生しています。じしんは火山とふかくかんけいしていますが、全世界の活火山の7.1%は日本にあります。じしんはとてもこわいです。私たち日本人は、じしんにそなえて、家の中で安全たいさくを行います。まず、家具がうごかないように固定することが大切です。じしんが来たときに、家具がたおれてケガをしないようにします。また、ひなん場所やひなん用リュックをじゅんびしておきます。ひなん用リュックには、水や食べ物、きゅうきゅう用品などを入れておきます。じしんが来たときには、すぐにひなんできるようにします。家の安全たいさくは、家族の命を守るためにじゅうようです。

日本の家のきせつごとの変化

日本には四季があります。きせつによって、家の中のすごし方が変わります。夏はとてもあついで、エアコンやせんぷうきを使ってすずしくすごします。また、まどをあけて風を通すことも大切です。冬はとてもさむいので、こたつやストーブを使ってあたたかくすごします。だんぼうきぐを使うときには、火事にちゅういします。きせつごとのかざりものも楽しみの一つです。春には花をかざり、秋にはこうようを楽しみます。きせつごとの変化をかんじながら、かいてきにすごすことができます。

近くの家の人たちとの付き合い

日本の家では、近所の人との付き合いが大切です。近所というのは、自分の家の近くのことです。町内会というコミュニティがあり、いろいろなイベントやかつどうがあります。町内会では、お祭りやせいそうかつどう、ぼうさいくんれんなどを行います。近所の人たちと協力して、ちいきを良くするためのかつどうをします。また、日常生活でも、となりの人とあいさつをしたり、困ったときには助け合ったりします。近所の付き合いは、安心して暮らすために大切です。

「日本の家」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

